

解説 1

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

- 第 1 文型においては、動詞は〈補語 (C : 名詞か形容詞)〉も〈目的語 (O : 必ず名詞)〉もとらず、副詞句が続くことが多い。
- 副詞は文の要素 (S・V・O・C) にあたらぬ。本書では副詞 (句・節) を M で表す。
- 第 1 文型 (SV) : 動詞は、補語も目的語もとらない
- (S)Time (V)flies. 「時は飛ぶ (光陰矢のごとし)。」
- ※ 動詞 fly 「飛ぶ」は、ここでは「速く進む」ことを示す。
単語は、比喩的な意味も含めて、イメージでとらえることが大切。
- 副詞 (M) は、〈時〉・〈場所〉・〈理由〉などを表し、名詞以外を修飾する
前置詞 (in や on など) で導かれる意味のまともは、基本的に〈副詞句〉と考える
- (S)She (V)goes (M)to school (M)by bus. 「彼女はバスで学校へ行く。」
- ※ to school 「学校へ」は〈場所〉、by bus 「バスで」は〈手段〉を表す副詞句。
(ただし、前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉ということがある。)
- “Where is Judy?” “(S)She (V)is (M)in my room.”
『ジュディはどこにいるの?』『彼女は私の部屋にいるよ。』
- ※ in my room は〈場所〉を表す副詞句。
be 動詞 is は「ある、いる」〈存在〉の意味を表す。
なお、Where は〈場所〉を表す疑問詞 (〈疑問副詞〉という)。
- There is/are 構文 : 第 1 文型の倒置構文 (文型を覚える必要はない)。動詞のあとにくる名詞が主語
- There (V)were (S)so many people (M)in the park. 「その公園にはとても多くの人々がいた。」
- ※ 〈There is/are 構文〉は、主語と動詞が逆になる〈倒置〉が起きた文。
動詞のあとにくる名詞が主語 (ここでは (so many) people)。文頭の There は訳さない。
【重要】 There is/are 構文の主語は、相手が知らないもの (新情報) に限られるのが基本。

A 演習 1 : 基本問題 日本語に訳しなさい。

1. I cannot swim fast.
「
」
2. My brother studies in the living room.
「
」
3. There is a dog statue in front of Shibuya Station. (statue 「彫像」)
「
」
4. There was an accident during the table-tennis match.
「
」

演習 1 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. 「私は速く泳げない。」 ※ fast 「速く」は副詞で、文の要素ではない。よって、SV の第 1 文型。
2. 「私の兄 (弟) は居間で勉強する。」 ※ in the living room は〈場所〉を表す副詞句で、文の要素ではない。なお、この文は現在形なので、兄 (弟) が「日常的に」居間で勉強していることを表す。
3. 「渋谷駅の前に (ある) 犬の像がある。」 ※ There is/are 構文なので、主語は動詞 is のあとの a dog statue。第 1 文型。in front of Shibuya Station は〈場所〉を表す副詞句。
4. 「その卓球の試合の間に、ある事故が起きた。」 ※ 主語は an accident。during 以降は〈時〉を表す副詞句。

B 演習 2 : 基本問題 日本語に訳しなさい。

1. My grandmother always smiled.
「
」
2. He skates very well.
「
」
3. There are many unique creatures in the Galapagos Islands. (名詞 creature 「生きもの」)
「
」
4. “How did you get here?” “We walked from the station!”
『
』
5. Thirty years ago, there were no roads or buildings around here.
「
」
6. Is there anything I can do?
「
」
7. According to their brain-wave patterns, tunas don't sleep. (名詞 tuna 「マグロ」)
「
」
8. There is an opinion that the world's tallest mountain is in Hawaii.
「
」

演習 2 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. 「私の祖母はいつも笑っていた。」 ※ smile 「ほほえむ」は補語も目的語も要さない動詞。SV。
2. 「彼はとても上手にスケートをする。」 ※ skate 「スケートをする」も、補語も目的語も要さない動詞。SV。very well は「とても上手に」は〈程度〉を表す副詞(句)。
3. 「ガラバゴス諸島には多くの固有の生きものがいる。」 ※ There is/are 構文なので、動詞直後の名詞 many unique creatures が主語。in the Galapagos Islands は〈場所〉を表す副詞句。
4. 『どうやってここに着いたのですか。』『駅から歩いたんです!』 ※ get 「到着する」も walk も「歩く」も、これらの意味では補語も目的語もとらない。how は〈手段〉を表す疑問副詞、here と from the station は〈場所〉を表す副詞(句)。
5. 「30年前、このあたりには道路もビルもなかった。」 ※ There is/are 構文で、主語は動詞直後の名詞 no roads or buildings 「ない道路とビル」。動詞を否定する not ではなく、否定語の形容詞 no で名詞を修飾する英語独特の表現。around here は〈場所〉を、thirty years ago は〈時〉を表す副詞句。
6. 「何か私にできることはありますか。」 ※ There is/are 構文。主語は anything (that) I can do で、関係代名詞目的格 that の省略。
7. 「脳波の波形によると、マグロは眠らない。」 ※ sleep は補語も目的語も不要。according to 「～によると」は前置詞句で、according to 以降コンマまでは副詞句。
8. 「世界の最も高い山はハワイにあるという意見がある。」 ※ There is/are 構文で、主語は an opinion。続く that のあとは opinion の具体的な内容を表す節(SV 構造を持つ)で、an opinion = the world's tallest mountain is in Hawaii となる。このような that を〈同格の that〉といい、「～という(意見)」と訳せる。

年 組 番 氏名

実施日

年

月

日

A	/4
B	/8

検印